

村井院政は許さない（２）

あるとき、私は村井副町長に
「辞表を提出したのですか？」と聞きました。
そのとき、心配したことが、現実起こっています。

4月の末(?)だったと思います。

新庁舎の玄関で、偶然会った村井副町長に「大変失礼なことを聞きますが、辞表を提出したのですか？」と聞きました。

私は当然、提出したものと思っていましたが、そんな噂が聞こえてこないのに、ストレートに聞いたわけです。

村井副町長「えっ、どうしてですか？」

吉岡 「いや、トップが変われば、三役は辞表を出すのが一般的と思ったので・・・」

村井副町長「いえ、出していません。(及川町長に) どうしますか？と聞いたら、今まで通りやってくれと言われたので、わかりましたと言った」とのことでした。

※以上の発言は記憶によるもので言葉自体は、100%正確ではありません。

実は、私は(1)「**あることを懸念していました**」ことと、

(2)「村井さんという人間が、基本的な点で信頼に足る人間か」という点を
はっきりさせたかったからです。

今回は、(1)だけ話しておきます。

(2)は、刺激が強すぎますので、個別に口頭で伝えます。

場合によっては、(1)と一緒に一般質問で町民に明らかにするかもしれません。

私が懸念していたのは、及川町長と村井副町長との**年齢差とキャリアの長さの違いと在職中の地位**の違いのことでした。

村井副町長は、及川町長よりも、年齢が上で、役場職員としてのキャリアも上で、しかも、役職が上だったのです。

村井副町長が総務課長の時は、及川町長は、確か課長補佐でした。

また、及川町長が教育次長の時は、村井副町長は副町長でした。

おまけに、村井副町長の方が、及川氏よりも性格が、強い(きつい?)のです。

だから、及川氏の方針(公約)に反対の場合は、村井副町長は、おそらく、言う

ことを聞かないことが、十分予想されました。(懸念されました)

村井副町長は、及川新町長を目下とみることを何十年もやってきたことです。ほとんど習慣になっているはずです。

心配したのは、村井副町長は、安平町の新体制になっても、及川新町長を「部下」として見てしまう心配があったのです。私にはそのことが大きな懸念材料でした。

すると、一般職員も、及川町長よりも、村井副町長の方を見ながら仕事をするようになるという最悪の安平町役場の空気を心配したのです。

及川新町長は、「町政執行方針」の中で「和をもって貴しとなす」と言いました。聖徳太子のこの言葉は、不本意にも、村井副町長との「和」が優先され、「公約の実行」に支障が来る。そのため、「公約の実行」に至らないのではないかと、思われてなりませんでした。。

だから、村井副町長に期待したことは、「自分が副町長になったら、及川町長はやりづらいただろうな」と気を利かして、「辞表を提出する」だろうなと思ったのです。

それが後輩に対する思いやりだし、けじめだろうと思いました。

しかし、実際はそうにはなりませんでした。村井副町長は「どうしますか？」と及川新町長に聞いたというのだから正直、驚いたのです。

まずは、辞表を出すのが先です。

ついに、懸念していたことが起こりました。

村井副町長の「院政」による、及川新町長の公約実行の妨害です。

7月2日、村井副町長は、及川町長の方針を公然と否定しました。

そして7月10日には、及川新町長は、「19年通達」反故（ほご）の方針を議長に「通知」してきました。

なんで、副町長が、町長が伝えた方針に対し「うーん」と首をひねり、公然と反対するのか？ **サービス関係が完全に逆転しているではないか？**

すでに前回書きましたが、建設課に資料提供を求めていたものが、「村井副町長の方からストップ」がかかっていた。この件で再度「村井副町長と話すこと」を勧められていたが、村井副町長とは十分話し合ったあとでのことでしたから、村井副町長との話し合いを無意味に感じ、それで、6月29日、及川町長宛てに「7月2日、辞令交付式のあと、情報公開の件で至急話がしたい」とメールで面会を申し入れたところ、「少しの時間なら」と言うことでアポが取れました。

私は7月2日に「19年度通達」と「26年の議員の自主規制文書」を持って、及川町

長に会いました。

私は、及川町長に「19年度通達」の説明をし、「このときの方針を守ってほしい」と申し入れました。及川町長は、選挙公約でも、町政執行方針でも、情報公開に関して積極的な姿勢を示していましたので、(以前から積極的でした。)その為かと思いますが、「平成19年当時、課長でなかった人が今は課長になっている」ことを述べた上で、「(19年通知を)庁内に周知したい」と述べました。この間、約7,8分だったと思います。私は、用件が済んだと思い、椅子から立ち上がりかけたとき、及川町長が、「ちょっと待って」と言って、「後で、言った言わないとなっても困るから」と言って、村井副町長に電話をかけました。少々時間がたった後、(そのときは、村井副町長は席をはずしていませんので)村井副町長が、町長室にやって来ました。

町長が、村井副町長に「19年度方針を引き継ぐ」旨を伝えたとき、村井副町長は、「うーん」と首をかしげ、少しうなったあと、私に対して村井副町長の持論(なんで議員を特別扱いにするのか。議員が要求したら、何でも出さなければならぬのか、情報をできるだけ出さないようにする側と出させる側との攻めぎあいだ)を述べた為、私との議論が再燃しました。9時半に町長室に行って出てきたのが、11時でした。その間、町長は二人のやりとりを聞いていましたが、最後に、こう言いました。「吉岡さんが欲しいものが、手に入るようにする。ただ、内部的な手続きを協議するので了解してほしい」と述べました。

しかし、当初から、懸念していたことが起こりました。

7月10日、及川町長名で、「19年通知の廃棄」を内容とする「新通知」が、牧田議長に送られました。村井副町長院政が行われていることが、公然と示されたのです。